

マハティール前首相、UMNO を離党 (2008.5.19)

マハティールの UMNO 離党の影響

伊賀司

(神戸大学大学院博士課程)

第 4 代首相として 22 年間(1981-2003)首相の座にあったマハティールが与党 UMNO を離党した。離党発表は 5 月 19 日、アロー・スターで支持者を集めた講演の席上、「ハプニング」的に行われた。マハティールは、スピーチ後の質問で参加者から離党してアブドゥラ首相への反対活動を行うように求める声が沸きあがった際、その場で離党を宣言した。離党の公式声明は自身のブログで、その日の夜 10 時に発表された。離党発表について周囲の人間や家族(息子で UMNO 青年部で台頭しつつあるムクリズを含め)に相談はなかったようであるし、本人もその場の雰囲気から一瞬で決断したようである。マハティール離党の影響は今後の展開次第である。ただし、マハティール-アブドゥラの二者に加え、後継首相に最も近いナジブ副首相を加えた三者間の関係に注目する必要がある。

アブドゥラ-マハティール間の対立は、選挙後、ますますヒート・アップしている。マハティールは与党大敗の原因をアブドゥラの指導力欠如であると非難を強めている。一方、アブドゥラは政権延命のため司法改革に取り組む姿勢をみせているが、その一環として、弁護士の V. K. リンガムが関与した司法への行政の介入事件を問題にしている。事件に関し、5 月 16 日の政府発表のレポートでは、マハティールの直接関与を含め調査が行われる方針が示された。アブドゥラ側のマハティールに対する攻勢であろう。

アブドゥラ-ナジブの間は、アブドゥラによるナジブの後継の確認と権力継承を進める方針が示されたことで、当面の関係は平穏を保っている。ナジブの関心は未だ明示されていないアブドゥラの退任時期であり、スムーズな政権移譲こそが最大の課題である。

ナジブ-マハティールの関係は微妙である。4 月 1 日のフォーラムでマハティールは後継首相について問われると、以前の主張を若干修正し、ナジブを推さず、ナジブは複数の候補の 1 人であるとした。一方、5 月 7 日には、マハティールはアブドゥラがナジブと自分との会談を邪魔しているとコメントを出している。このコメントの後、アブドゥラは両者の会談を妨害していない

ことを言明。その後の 11 日には、副首相公邸でマハティールとナジブの会談が実現した (Malaysiakini 2008/5/14)。会談内容について詳細は明らかではないが、両者の間でポスト・アブドゥラの取り決めが交わされた可能性が高い。21 日に結束を確認するため開かれた緊急の UMNO 最高評議会の後、ナジブは離党問題について、マハティールとの会談を行う用意があると語っている (Bernama 2008/5/22)。マハティールーナジブ間では現在、水面下で交渉が行われていると思われる。

マハティールはアブドゥラ辞任後には UMNO に戻るとし、彼に続いて UMNO 党員に離党を求めているが、野党に加入しないように求めている。マハティール離党は UMNO に衝撃を与えたものの、その影響は、今後の三者の関係に大きく左右されると思われる。■